



荷負本村にあるモアシパケチャシ跡。写真中央にはチャシ跡の壕の跡が見えます。

平取町内のチャシをめぐる－トパットゥミ伝承を学ぶ－

令和7年10月19日（日）、二風谷アイヌ文化博物館と二風谷アイヌ語教室による文化的景観現地説明会「沙流川流域のチャシ跡をみる」が開催されました。秋晴れのなか、参加者は約3時間かけて平取町内の7カ所のチャシ跡をめぐりました。

北海道全体では500カ所以上のチャシ跡があり、平取町内でもこれまでに25カ所のチャシ跡が確認されています。そのうち、テラスや壕^{ごう}など人工的な構造が残る「実在のチャシ」が23カ所、地名や伝承だけが伝わる「カムイチャシ」が2カ所あります。

実際にチャシに入ると、多くが見晴らしのよい丘陵の上に作られていることが分かります。平地から登るには少し大変でしたが、頂部には意外なほど平らな空間が広がり、深い壕が複数設けられている場合もあります。そこからは川や遠くの山まで見渡すことができ、こうした構造から、チャシの多くが見張りや防御的な役割をもっていたことが分かります。

今回訪れたチャシ跡のうちでは、岩知志のオタリオマップチャシ跡と貫気別のニオイチャシ跡には、トパットゥミ伝承が残されています。トパットゥミとは、あるコタンの人びとが他のコタンへ行き、夜になるのを待って襲いかかり、宝物を奪うという行為とされています。沙流川流域では、十勝方面からのトパットゥミが多く記録されており、ほかにも北見や釧路方面からの伝承があり、遠方からのトパットゥミが多く伝わっています。

実際にチャシの内部に立つと、こうした歴史や伝承を、風景とともに肌で感じることができます。来年度の見学会にも、ぜひご参加ください。

（地域おこし協力隊 黄浩然）

令和7年度二風谷アイヌ文化博物館特別展

「二風谷の記憶－くらしと観光」終了しました！

9月17日（水）から11月30日（日）まで、二風谷アイヌ文化博物館・伝承サロンで特別展「二風谷の記憶－くらしと観光」を開催しました。昭和30～60年代に撮影された写真を通じて、戦後の観光ブーム期における二風谷の姿を紹介しました。観光地として注目を集めた風景だけでなく、そこで営まれてきた人々のくらしにも目を向けることで、地域の歴史や文化を多角的に振り返り、その魅力を再発見する機会になったと思います。



会場の様子



会場の様子



会場の様子



ジオラマ



ぬり絵体験



ピックアップ展示

特別展講座「あのころの二風谷を語ろう」トーク&まち歩きイベント

10月26日（日）アイヌ工芸伝承館ウレシパで特別展講座を開催しました。北海道大学アイヌ・先住民研究センター長・山崎幸治氏を進行役に、地域の工芸家・貝澤守氏、関根真紀氏をゲストにお招きし、昭和30～60年代に撮影された二風谷の写真や映像を見ながら、当時の二風谷を振り返り、自由に語り合うトークイベントを行いました。イベント後半には、普段は見ることのできないウレシパのバックヤードを見学し、特別展で展示している写真が撮影された当時から使われている機械や普段の制作の様子をみました。その後、写真を見ながらまち歩きをして、各々で変わったもの・変わっていないものを探して、盛り上がりました。

（守屋李佐子）



トークイベントの様子



バックヤード見学



まち歩きの様子

令和7年度沙流川歴史館特別展

『未来に残そう大切な樹木－保存樹と推しの木－』

10月7日（火）から11月30日（日）まで沙流川歴史館特別展を開催しました。今回は町内16か所の保存樹と町民の方から推薦のあった14か所の樹木をパネルで紹介しました。その他、葉っぱのパズルや20種類の木の实などを展示しました。

「地域の方が大切にしている木のことが知れた」「葉型パズルや木の实展示は楽しくわかりやすかった」「古い樹を保存する取り組み、すばらしい」などの感想が寄せられました。

特別展で紹介した二風谷八幡神社の御神木（ミズナラ）が、11月に強風のため根元から折れて倒れてしまうという出来事がありました。樹木は枯れたり強風で倒れたりしますが、これからも保存樹を大切に見守っていきたいと思います。

ご来場いただいた方、ご協力いただいた関係者の皆さまに感謝します。



展示風景



倒れる数日前の二風谷八幡神社の御神木（ミズナラ）

特別展関連事業

「まちの名木をめぐるバス見学会」

10月12日（日）、特別展で紹介した樹木をめぐるバス見学会を開催し、19名が参加しました。川向から二風谷の名木を、北ノ森自然伝習所主宰 三木昇氏をガイドに見学しました。当日はあいにく小雨の天候でしたが、三木氏から平取の歴史や自然と人の関わり、開拓当時の土地の植生など、保存樹やそれ以外の樹木の特徴を解説してもらいました。樹木をとおして町の歴史や自然を知る良い機会となりました。



集合写真

「親子木育教室 木の実でつくるインテリア」

11月1日（土）、「親子木育教室」を開催しました。どんぐりや松ぼっくり、葉っぱ、木片などを使い、リースや壁飾り、写真たてなどを親子で作りました。色々な材料を上手に組み合わせ自分だけのインテリアを完成させ、参加者からは

「自然のものを使って想像しながら作るのが楽しかった」「たくさんの材料を自由に選んで作れて、親子で楽しむことができた」などの感想がありました。これからも親子で自然と親しむ行事を企画していきます。（津川貴晃）



出来上がった作品と親子で作品づくりの様子





学芸員のへや⑥

木彫り熊のルーツ

「学芸員のへや」第6回のテーマは、旭川における木彫り熊のルーツです。旭川で制作されてきた木彫り熊は、アイヌ文化や観光の広がりの中で形づくられてきました。今回は「アイヌ文化とのかかわり」についてお話をします。

松井梅太郎と木彫り熊

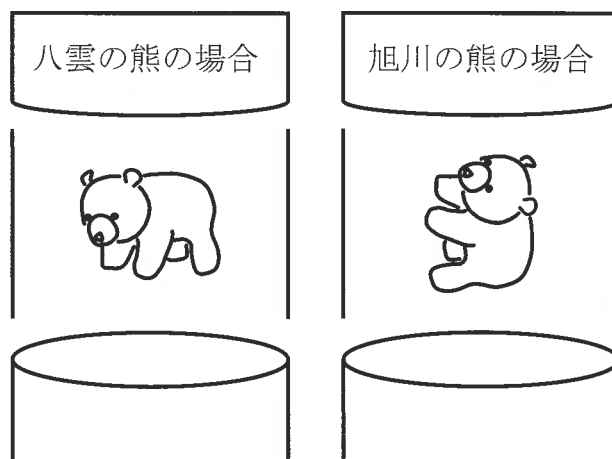
大正期末から昭和初期にかけて、観光客が急増した旭川では、1926年頃から熊猟師である松井梅太郎をはじめとする近文アイヌの人々が制作をはじめます。松井が熊彫りをはじめたきっかけは、熊狩りにでかけた時にクマと格闘したことやそのクマを取り逃してしまったことなど、諸説ありますが、松井の個人的な経験や感情がもととなっています。こうして、旭川において木彫り熊制作がはじまり、松井に続いて近文アイヌの人々にも制作の動きが広がっていきました。

アイヌ文化とのかかわり

旭川で初期に制作された木彫り熊は、アイヌ民族のサパンペなどと呼ばれる儀礼で使用する冠や、イクパスイなどと呼ばれるお酒を捧げる道具にみられる熊の造形が反映されています。鼻筋が長く、「わに熊」や「ぶた熊」などと呼ばれ、現在よく見られるものとは異なります。また、這い熊を制作するときの木の使い方に注目すると、八雲町では熊の背と脚が木の天地となりますが、旭川ではイクパスイを制作する方法と同じで、熊の頭とお尻が木の天地になるようにつくられており、そのルーツがアイヌ文化に由来することが推測されています。



サパンペにみられる熊の造形



地域よる木取りのちがい

(守屋李佐子)

参考文献

- 五十嵐聡美 2012 「「木彫り熊」物語」 『AINU ART 一風のかたりべ』 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
大谷茂之 2020 「木彫りとなったヒグマ―八雲町の木彫り熊を中心として―」 『ヒグマ学への招待』 北海道大学出版
川上哲・伊井温彦・前正七生 2005 『北海道の木工芸の起源と現状と未来～木彫り熊のルーツを追って～』
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
齋藤玲子 1994 「北方民族文化研究における観光人類学的視点 (1)：江戸～大正期におけるアイヌの場合」
『北海道北方民族博物館研究紀要』 第3号
三浦孝一 2009 「木彫り熊、発祥の地・八雲から北海道内へ」 『平成20年度普及啓発セミナー報告集』
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

アイヌ語を覚えてみよう ②7

イランカラプテ！（こんにちは！）

今回は、マタ（冬）に関する興味深いアイヌ語の用例を、萱野茂のアイヌ語辞典（三省堂）から紹介します。

【タンマタ / この冬】

ソンノ タンマタ アナクネ ウパシ ポロ クパシケ（ク・ウパシケ） カ コヤイクシ
本当にこの冬は雪が多くて私は雪掃きもできない

【イタピル / 床拭き（をする）】

▷イタ＝床 ピル＝を拭く

クポニタ（ク・ポン ヒ タ） 学校 オッタ（オロ タ） イタピル・アン マタ ネ コロ
ア・ピリパ オカケ ルプシ ワ アラパ プ ネ ア ワ

私が子供の時、学校で床拭きをした。冬であれば、拭いた後が、
すぐに凍っていったものだったよ



【ケラッ / 紐、靴（鹿皮の履物）紐：ツルウメモドキの皮】

▷ケレ＝履物 アッ＝紐 ケラッ シナ＝履物の紐を結ぶ。

フ アッカブ アニ ケラッ ア・ニカ コロ マタ カ ア・ピタ エアシカイ ペ ネ
生オヒョウの木の皮でケラッをなうと真冬でも解くことができる

【ポネウカ / 骨のように堅い堅雪】

おとなが堅雪の上を走ってもぬからないのをいう。▷ポネ＝骨 ウカ＝硬雪

＊昭和 30 年の 1 月、珍しく二風谷は大雪で深さ 3 尺はあったであろう。そこへ 2 月の初めに大雨が降った。この雨のことをキムンカムイ ポフライェブ（熊の神様が子供を洗う雨）という。その雨の後へもう一度寒波が来て言葉通りのポネウカになった。このような場合は鹿にとっては御難の冬。犬もアイヌも雪の上を自由に歩けるが鹿は腹がつかえ歩けなくなる。そこへ皆が走って行き手づかみにして肉を食べた。あの年の冬はこの村だけで 100 頭ほどの鹿を獲ったが、警察に引っぱって行くとすれば村人全員なので代表ひとりだけ始末書を書き、残りの村人は不問に付されたものであった（萱野）



ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラン ロー！（それではここまでです。またお会いしましょう！）
（生涯学習課 関根健司）

沙流川流域の野鳥たち No.17

フクロウ目フクロウ科

観察難易度：★★★★☆

アオバズク

学名：*Ninox japonica* 英語名：Brown Hawk Owl

漢字名：青葉木菟

アイヌ語名：アフンラサンペ【ahun-rasampe】等

- 大きさ** 全長 29cm 翼開長 68 cm
- 鳴き声** ホッホー、ホッホー…と繰り返して鳴く。
幼鳥はリィリィリィ…と虫のような声。
- 特徴** 大きさはハトと同じくらい。大きな黄色い目
が特徴的。
- 生息環境** 平地から低山の広葉樹林。神社林や防風林など。
- 時期** 夏鳥。東南アジアで越冬し、初夏に日本に渡
来する。青葉がしげる頃に渡来するからこの
名がついた。
- 行動** 大きな木のくぼみに住む。夜行性のため日中
は林内で休んでいる。 (西 希)



成鳥 体下面に太い縞模様がある



幼鳥

(参考文献：『新訂 北海道野鳥図鑑』亜細亜社
『ぱっと見わけ 観察を楽しむ野鳥図鑑』ナツメ社
『日本鳥類目録改訂第8版』)

アイヌ文化との関わり

アイヌ語名の「アフンラサンペ」は「あの世の化け物」という意味で、日高地方には「死んだ人の魂があのだ世に行けずアオバズクになった」という伝承が複数存在します。また、その鳴き声から「ホチコク」と呼ばれることもあります。

あまり良いイメージの鳥ではないようで、平取町出身の川上まつ子さん(1912-1988)は、次のような言い伝えを残しています。

ある娘が、山小屋のわきにいた奇妙なものを棒で突いたところ、鳥の足が見えて恐ろしくなりました。娘からそのことを聞いたおじいさんが小屋に戻って見るとアオバズクが死んでいました。年配の男性たちで送りの儀式をしましたが、しばらくするとその家のおじいさんが正気ではなくなり、体が丸まって転がって歩くようになり、とうとう死んでしまったそうです。

(参考文献：国立アイヌ民族博物館 アイヌと自然デジタル図鑑)

開拓財産 ～むかしのどうぐ～

【アイヌ民族と近代開拓】

番外編
寄贈資料について(2)

かわなのそうしち

川奈野惣七氏（1931-2023）は平取町長知内で生まれ育ち、子どもの頃から実家の農業を手伝いました。昭和 58（1983）年には長年の夢であった川奈野木材を設立しました。

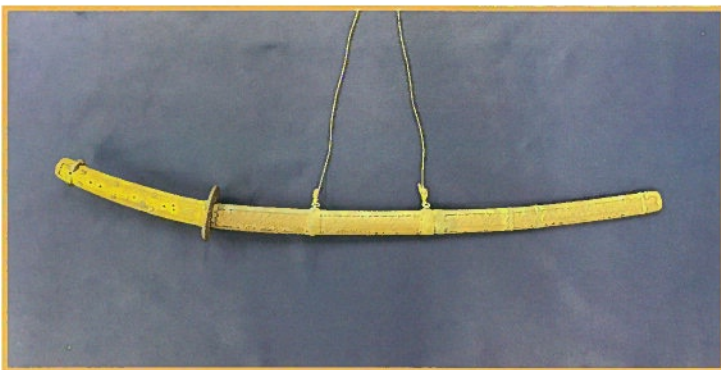
おさちない

また、川奈野氏は平成元（1989）年から同 22（2010）年まで北海道アイヌ協会平取支部（現平取アイヌ協会）の支部長を務め、アイヌの文化振興や生活向上などに寄与しました。逝去後は、ご遺族から平取町教育委員会に写真資料と生活・生業道具が寄付されました。

その中にはアイヌの祭祀具が 13 点が含まれています。内訳はイクパスイ（捧酒箸）4 点、サパンペ（冠）1 点（写真 1）、トゥキ（杯）・オユシペ（天目台）及びプタ（蓋）が 2 セット、オッチケ（膳）1 点、タンネピコロ（長い宝刀）1 点（写真 2）です。サパンペは平取町紫雲^{しうん}こっ^{なべさわともつ}出身のアイヌ文化伝承者であった鍋澤保氏（1936-2018）が制作しました。



▲ 写真1 サパンペ



▲ 写真2 タンネピコロ

写真3は平成 17（2005）年の3月に町内の造材現場で撮影されました。新しく導入した重機のお祓いのカムイノミを執り行っている場面です。右側の人物が川奈野氏、左側の人物が鍋澤氏で、祝詞をあげた後で重機の足周りに酒を捧げています。時代の移り変わりとともに林業の形態や道具も変化していきましたが、両氏がカムイに祈りを捧げる姿に、現代の暮らしの中でもアイヌプリ（アイヌ風）が大切にされている様子を見ることができます。

（廣岡絵美）



▲ 写真3 鍋澤氏（左側）と川奈野氏（右側）

平取町開拓財産資料館（平取町字荷負77-3） 見学のご案内

【開館日時】＊変更の場合あり

5～11月の月・水・金曜日（祝日休館） 9:00～12:00

上記以外の日程のご見学についてはお問合せ下さい。

【ご予約・お問合せ】

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892

または 沙流川歴史館 ☎01457-2-4085

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■休館のお知らせ

4月15日までの毎週月曜日休館になります。(2月23日は臨時開館)

萱野茂二風谷アイヌ資料館

■冬期休館 (4月15日まで)

問合せ：TEL 01457-2-3215

沙流川歴史館

■企画展

『えほんでみる

アイヌのおはなし』 (仮題)

期 間：4月28日(火)～6月7日(日)

場 所：沙流川歴史館企画展示室

休館日：毎週月曜日

二風谷コタン DAY in ウィンター

二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館で特別な体験を！
お子さんから大人まで楽しめるイベントをたくさん用意しています。普段は聞けないお話しや、体験コーナーなど、昼間のイベント・夜のイベント盛りだくさんです。
是非、ナイトミュージアムへお越しください。

日時：2月7日(土) 10:00～20:00 場所：二風谷コタン

2026年1月

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2026年2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

2026年3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2026年4月

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	1	2

● 博物館・歴史館 休館日 ● 歴史館休館日

シシムカ文化財だより No. 29

2026年1月30日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook
Instagram 更新中!



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中!

